



今昔物語部 十四目錄

八日

今昔物語部 十四目錄

今昔物語部 十四目錄

○怪異傳

- 一 鬼現油瓶形殺人語
- 二 近江國女生靈來京害人語
- 三 河原院化物殺女語
- 四 鬼現板殺人語
- 五 近江國鯉與野戰語
- 六 常澄安永於不破關夢妻語
- 七 紀遠助值女靈被殺語
- 八 亡妻靈值舊夫語

九曜文堂

卯支千表及

九 亡夫來值妻語

十 鎮西人至度羅嶋語

十一 播磨國鬼來人家被射語

十二 近江國栗本郡大柞語

十三 白井君銀提入井被取語

十四 近衛舍人於常陸國依歌失命語

十五 於京極殿有詠古歌音語

十六 雅通中將家在同形乳母二人語

十七 散米退鬼語

十八 堀河空毛妖怪語

十九 民部太輔願清婢女逢妖怪語

二十 西京人見應天門上光物語

今昔物語 和朝卷十五

遊

今昔物語 卷之十四

今昔物語 倭部 十四

○怪異傳

一 鬼現油籠形殺人語

今昔物語。小孫宮大臣源實資<sup>まゆき</sup>やもろ人内よ  
 ありて出るとき。大なる風をふりてわたりし車<sup>くるま</sup>のち  
 り。小き油籠<sup>あぶらご</sup>がゆりゆきとけとび。大臣の車<sup>くるま</sup>にありて  
 こゝろのくま<sup>くま</sup>をいふとけとび。大臣の車<sup>くるま</sup>にありて  
 西<sup>にし</sup>の門<sup>かど</sup>の閉<sup>と</sup>りありし。油籠<sup>あぶらご</sup>  
 溢<sup>あふ</sup>の元<sup>もと</sup>よりあり。ゆきとけとび。大臣の車<sup>くるま</sup>にありて  
 めて油籠<sup>あぶらご</sup>がゆりゆきとけとび。大臣の車<sup>くるま</sup>にありて

今昔物語の和朝野草子 卷之十四

かくは...  
ゆく。何事ある。関てみれ。それば...  
使や...  
作...  
も...  
より...  
目...  
かん...  
くら...  
くら...

二 近江國女生靈未済系害人語

今いじり。系り...尾張へ...  
ゆく...  
て...  
て...  
へ...  
く...  
け...  
に...  
か...  
男...  
く...  
く...

古今... 卯... 四...

近江守とて何れも其のむけあかり。東のこゝにあつた  
この通ちりうねだれやうきまゝといひしむ。おとけ  
中へ先ね男かゝりあやまきまきり門閉るるぬ  
はくより入るるぞと。ねとるうへくさのくま長りり  
門の内へおとるる。さあめちるるあわら。うらねるるあ  
笑ひ。人のあはれしるる氣さしちり。希有のさうねとお  
ししく。あわもく純。さあ家の内へしるるあわら  
がぬに出入るふ念と。汝が家より何事おありぞと  
問。さのあはれし。近江守かたしるる女房のせしあ

あやほさしてけ敷久くうらむいさしげ。け贖る其  
けあわらうねるる。あはれあつて。あやうに先あひり  
かりしあつて。あつて。女のうらむいさしげ。さう  
さあめちるる。あはれし。さあ家の内へしるるあ  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
さう。さう。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。

思ふに... 恨み

三 河急院化物救女諸

今いけり。東の方より深淵尋て。かさんとさういへ。また  
のりいへり。奥あわり。かきく妻とよ。たつめ。たふされ。あを  
もんと。まよ。果して。より。うろ。宿而遠く。あうり。たれ  
づ。河急院。このころ。の。人。か。り。か。其。影。りの。考。り  
ろ。や。幕。し。ま。り。て。宿。ろ。り。夕。暮。方。よ。乃。比。若  
ふ。り。さ。ら。し。ろ。れ。この。妻。を。内。より。れ。し。は。さ。て。  
妻。あ。て。り。へ。り。ま。し。あ。し。た。と。さ。ん。と。と。結。ぶ。も  
う。れ。だ。ら。い。今。後。し。て。閉。ろ。り。は。あ。き。ん。と。す。さ。た

ひ。ま。は。男。迎。て。あ。ら。れ。人。の。あ。よ。り。て。あ。ろ。く。め。ま  
わ。り。る。ま。と。け。て。ふ。と。り。の。救。す。人。あ。つ。ま。り。ま。も。銚。と。れ  
ひ。さ。を。初。ら。し。き。火。を。あ。り。て。さ。ふ。の。妻。あ。を  
撫。り。あ。た。る。は。掉。ろ。り。う。ろ。り。を。あ。り。は。は。骨  
が。う。り。狭。く。肉。が。う。り。さ。ら。う。り。鬼。の。吸。殺。ろ。り  
み。ろ。り。と。人。と。云。合。ろ。り。妻。は。う。り。さ。ら。い。ご。の。男。も  
様。を。く。ね。の。が。團。へ。あ。げ。ろ。り。し。や。あ。ん。ご。ら。に。は。さ。く  
さ。ら。う。り

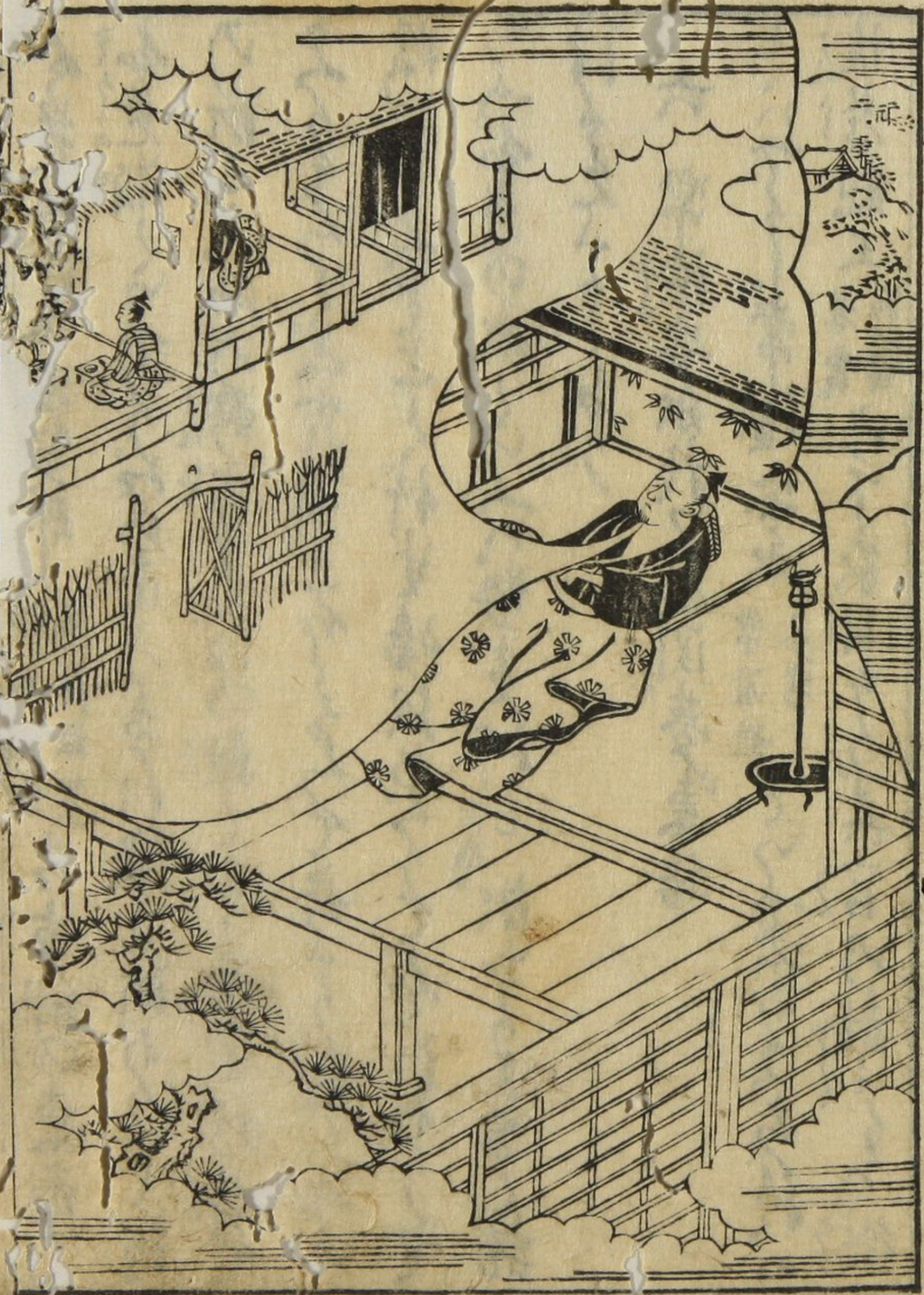
四 鬼現板殺人諸

今いけり。人乃許し。は。侍。人。を。あ。ろ。り。わ

南に宿直を式人として剛やう  
ちう。ちうと常くつ宿直して。物持ども志きり。又その  
家へ宿直しり。長侍の法司候し。五位下たる者  
うらや。と宿直し物持よひり。即ちうらや。と  
乃比して。わつとさきえがた。宿直は。居る式人の  
侍。つらげ。て居る。夜深とる程。東の  
基の棟より。俄に板のこし。せり。たれ。式人の老  
いも。ちう。事。れ。つ。角。に。板。七。人。け。お。ん  
る。う。び。う。く。て。宿直。二人の侍が。あ。ん。ゆ。二人の  
侍。と。て。鬼。の。や。ち。候。ち。か。板。を。と。て。居。候。候。

近頃の事。ひさ。彌子の迫り。わ。あ。り。け。板。を  
く。て。い。ぬ。げ。た。物。持。ち。あ。み。候。り。五位侍。物。持。  
され。ち。あ。り。二。と。度。う。め。候。を。も。ま。け。と。二。人の  
侍。井。り。あ。け。つ。と。人。を。た。て。て。あ。り。候。事。あり  
け。り。や。は。げ。れ。い。人。と。候。出。候。ち。か。り。て。あ。り。候。り  
。其。五位侍。ち。平。め。ら。も。と。あ。り。板。お。し。出。た  
る。れ。い。と。也。あ。り。候。り。と。う。り。と。い。は。り。男。と。ん  
もの。ち。か。り。候。り。身。は。具。と。い。ひ。もの。ち。か。り。候。  
し。あ。り。候。り。と。い。は。り。候。り。也。





今昔通にぬる賀那後名 市郷の東南

を見瀬といふあり。江の南乃をこり勢多河あり。その河

乃瀬乃大瀬乃鰯鰯上りて江の鯉鯉とをくくふ。鰯鰯員員て

うりとりて。山背國山背國をそりて岳岳なり。鯉鯉の勝勝

後。江より上りて。竹生嶋竹生嶋なるなり。今にありて

つ。を員員の瀬といふ。勢多河字減ス。瀬瀬なりとせん。諸

はくえふなり

六 常澄安永常澄姓 不破園夢妻語

といひなり。常澄安永未考 とつとあるあり。その後ハ

惟孝親王孝當 乃下家司乃下家司なり。其官官乃封戸封戸を徴

ひがみよ。上野園上野園よりくくつりたり。其後園園不破

園園宿宿と寝寝りしめ。其夜の夢よ。京のうこつり

史史瓜瓜燈燈してあるあるあり。その夢とていひ。一人の童女

を具具くたり。迎迎くたり瓜瓜とていひ我妻我妻なり。そのあり

とていひ。同同小隣小隣家家に入り。安永壁壁の穴穴よりいひて

とていひ。我妻我妻とていひ。其の語を寝寝り。安永とていひ

を焼焼く。その小舎小舎に寝寝り。安永とていひ。その

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり

事。其の我妻我妻。うけつり。うけつり。うけつり。うけつり





とていふは、物もなほ、  
ついでつらして、蓋が、  
乃ね、  
ありし、  
と受、  
け、  
あ、  
家、  
向、  
さ、

妻が嫉妬よりして、遠物、  
け、

八 凶妻靈値舊妻詔

今い、  
か、  
其、  
あ、  
て、  
あ、

今昔

たゞ、  
てうも、  
から、  
て、  
あ、  
が、  
の、  
う、  
か、  
る、  
は、

九月中の十日に事なれど、  
さ、  
い、  
や、  
さ、  
ん、  
物、  
は、

今昔物語 卷之十三

とてさういふは、ぼろいとも、つりかきと、数か所、  
末のくぬね、長より程よ。睦よちりて。とも、に寝入の間、  
おれく、おゆて、目のさへ、入るる、男井、より、あて、妻ゆ、え  
あま、枯く、やう、く、た、人、ちり、こ、い、つ、か、ね、あ、ま、り、い、け、い、  
記、う、つ、つ、ね、む、り、下、り、く、僻、目、り、こ、足、た、た、こ、う、ぐ、い、あ、ん、た、死  
人、ちり、其、何、よ、水、干、袴、と、者、て、隣、の、中、家、よ、約、あ、今  
け、ら、う、く、厚、さ、る、中、う、は、く、は、隣、の、人、い、つ、う、が、あ、い、ど、あ、い、  
人、い、あ、ま、ら、て、同、た、れ、ば、其、人、い、年、は、の、男、れ、去、て、を、  
う、ら、う、り、し、と、さ、い、く、い、ま、げ、さ、う、狂、い、病、つ、と、  
な、れ、む、い、よ、人、あ、ま、う、て、は、い、ま、う、せ、れ、り、あ、死、骸、と、あ、て

持、つ、も、の、い、ま、け、さ、い、ま、い、り、あ、り、こ、い、ら、う、ぶ、男、い、  
く、ね、を、し、て、あ、げ、降、ら、う、。実、に、た、ふ、お、さ、ら、う、  
お、ん、年、は、の、さ、い、よ、お、ま、い、び、て、魂、の、を、あ、う、を、さ、ら、  
あ、ま、い、あ、れ、ち、あ、る、事、ち、り、と、い、う、り、行、つ、と、う、と、也

九 込夫来値妻語

今、い、ら、う、。大、和、國、よ、後、人、も、ち、あ、い、ら、う、有、あ、ら、う、は  
り、く、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、は、あ、ま、い、れ、を、あ、い、ら、う、。又  
河、内、あ、う、後、人、あ、り、。一、人、の、男、子、あ、り、。年、つ、く、あ、ら  
う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、。ま、い、と、う、て、宮、仕、と、。あ、い、ら、う、く、吹  
く、ら、い、び、い、の、子、た、わ、め、い、い、た、始、乃、う、ら、う、。有、あ、ま、い、ら、う、あ、

古今昔の物語 巻之十四

をゆきし身をけりぬ。おぼろは船にけりしをゆきは  
胸入きりけりぬ。おぼろは船にけりしをゆきは  
くり。おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。  
おぼろは船にけりぬ。おぼろは船にけりぬ。



古今昔の物語





よりあはれに射中れ者いひてより。さらば吾杖と見れり。されば。うらなふをたづねて。何者ぞものゆく。追くはあらず。追てよ。ふ射んと。うらなふ。はあ。む。いら。も。の。た。げ。り。し。ふ。これ。い。づ。こ。や。あ。い。う。ん。志。づ。く。あり。て。う。の。帰。入。り。き。り。取。乃。者。の。杖。を。れ。を。わ。り。て。溝。り。ぐ。ぬ。銚。ゆ。よ。帰。り。後。は。事。と。人。よ。か。く。ら。ん。年。も。む。ら。者。い。と。く。さ。ま。し。い。度。解。ゆ。ど。ら。い。あ。ま。り。飛。り。人。あ。り。て。人。を。合。さ。る。あ。り。り。業。の。ち。づ。づ。て。も。ゆ。よ。ゆ。き。を。づ。集。り。あ。ま。く。殺。し。て。う。の。か。と。あ。つ。ま。し。よ。ら。く。人。の。中。に。つ。て。あ。り。し。り。人。の。他。を。と。ら。ぬ。物。を。う。の。者。に。い。は。す。度。解。り。人。

といふ。ち。り。さ。こ。こ。ら。の。か。く。て。ら。ら。ぐ。づ。づ。て。あ。げ。た。れ。ば。こ。れ。今。も。わ。き。道。言。ふ。は。百。千。の。ち。り。あ。ま。り。も。被。射。れ。あ。ま。り。つ。つ。れ。あ。は。れ。り。ど。て。こ。ら。さ。れ。あ。ま。り。も。あ。ま。り。の。か。り。は。事。の。結。ぶ。り。人。あ。ま。り。の。か。り。こ。ら。が。語。ら。る。ぬ。國。つ。と。て。こ。ら。り。れ。り。こ。ら。り。と。也。

十一 播磨國鬼来之家被射語

少。い。し。う。播。磨。國。よ。り。あ。ま。り。人。の。家。に。あ。ま。り。あ。ま。り。の。日。あ。ま。り。ば。陰。陽。師。を。よ。し。い。こ。ら。い。し。い。ら。ふ。何。の。日。く。鬼。あ。ま。り。と。い。は。い。て。こ。ら。思。ひ。こ。ら。ま。い。何。方。より。あ。ま。り。と。い。は。い。て。あ。ま。り。あ。ま。り。と。い。は。い。て。物。思。ひ。



百部... 樹... 豊饒... 彼... 是希有...  
を伐てほ。百部田畠ははるふ。豊饒たうとては得  
たり。彼... 百部が子孫。今ふ其の郡々あり。  
しつ... 本ありとて。是希有の末也と  
かん... たり

十三 白井君銀提入井被取語

今昔。白井君とて僧。けだりい高辻東洞院に任  
し。後には鳥丸より東。六角より北鳥丸面。六角堂  
乃ししろわとて住たり。其の房より井と掘りて銀の  
鏡と掘出たり。白井君よりて。別の銀とて入て

小... 提... 持... 此僧が... 白井君... 其... 銀提と井... 水と  
汲... 取... 提と井... 水と  
君... 人... 水と汲... 鏡の... 水と  
る... 也

和歌... 常陸國... 冷語

相撲使よとあるよふらうらうと陸奥より常陸へ越

おら狐焼カキアゲの事と國とて深うささうあり。しら狐通とふと

馬眠うをてていひくうとけきば泥障ぬいぢやうと拍ひをたうらて

常陸奇を二と遍へんこひくう耐深なふとる奥おくより。お

かげちる勢せいとてあおねりうやとひく。おんさ

うらけきば。此男ここのおとこねらうとて馬うま狐きつね引ひとて。是こゝの旗はたが

とひつるぞと。後のち者ものどもに尋たずねどもをがらひつるまど

とまきずやとひきかれ。身みの毛けよとらてやとら

がうらうらうら。おくと宿しゆくはまゝくぬ。あうらあくとぬ

この宿しゆくありて宿しゆくぬいあり。常陸奇とち狐きつね其その國くにと

うらひく。國くに乃の神かみのやであらう。とてあうらうら

せと。かうりけいへうらと也

十五 於お系けい極ごく敷しき省しやう詠えい詠えい奇き音おん詠えい詠えい

今いまひじう。上かみ東とう門もん院いん 藤原道長女系けい極ごく敷しきよよ任にん多たいい久く耐な

三月廿日三月二十日あすう。南みなみ面めん乃の極ごくえねらばとたんと

院いんの寢しん敷しきうらうらゆけらふ。南みなみ面めんの目め深ふかの向まへの

やふ。氣け貴きくく邪じとびとら勢せいとて。とてはくあ

花はなとらうれとちがらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

久くのり。おとあうらうら。院いんきこく久くい

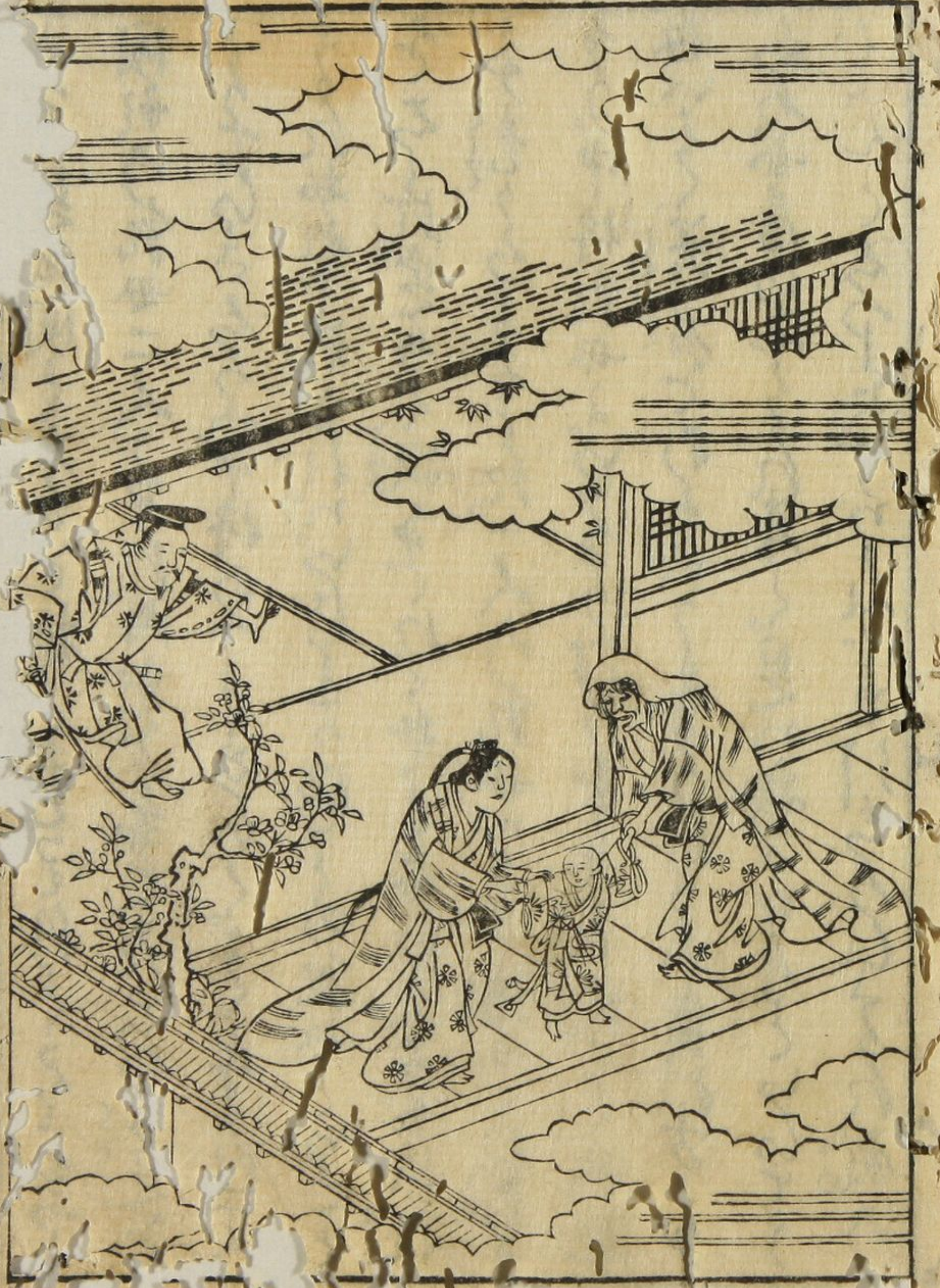
廿二日

今昔物語(秘傳) 三十一

久しに後の内より、賢者たる人の氣色を、  
 けしむ。あまのむ人を、あつて。かたせき歩みいひ、  
 迎へて、遠くとも人仕りぞ、やもり、さうの、  
 せむ、わづらひ、たのしみ、さうの、  
 物、の、靈、か、ど、く、や、も、ま、ん、と、  
 獲、つ、て、さ、う、さ、う、と、也、

十六 雅通中將家在同形乳母二人語

今、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、  
内大臣 雅定男 乃、家、の、四、條、よ、り、と、南、  
 室、所、よ、り、而、也、さ、う、ゆ、え、中、將、兒、二、歳、  
 母、の、ど、ろ、く、南、面、か、り、取、り、居、る、ら、ん、あ、ら、う、  
 中、將、北、面、よ、り、居、る、ら、ん、



かゝるもの國々を方と提くせむけくことあり  
圓形乃乳母二人の中、此兒を養てたはの<sup>てわ</sup>定と  
とりていとあらふ。中將の中へていふ。よくするに三人  
さうのあれど形さし。いざさうはしこの乳母といはし  
をさしだ。定ちかく<sup>ま</sup>瓶をいへてせとさし。ちかか<sup>か</sup>提  
ちか<sup>ま</sup>をうらうらうした。一人の乳母いへて清中いへて  
々の。中將乳母よ。いつさうけう事ごとく同くみ。乳  
母いへて若君とわさびうさうけうふ。奥れ方  
われ女房のみへていへ。是の我子けりといへてう  
むんとちあはせ。いざさういへるん。殿乃  
ねうは。まか<sup>か</sup>提く。ちか<sup>ま</sup>いへる。けよ。この  
女房の君とさうして。奥へはらうとけういへる。人  
ちか<sup>ま</sup>いへる。あはは。知と兒のいへてわさびをいへる。人  
ちか<sup>ま</sup>いへる。うらうらうけう人へて也

七 教米退鬼語

今昔わらう人方遠く下系をよ。知兒と奥へて  
り。其家は奥わらうと彼人のちか<sup>ま</sup>いへる。幼兒の  
はらうわらう。ちか<sup>ま</sup>いへる。かさうみ二人  
いへる。寝さう。乳母の目かさうして。兒へて  
かさう。あはは。あはは。あはは。あはは。あはは。あはは。

和歌集





和歌集 卷之二十四 二十二

由利の月影のつらむわなぬ本晴と方より淡黄上  
恙ら翁おきなの文排ぶんはいよ文をらして目のよめいさむおもひ  
て拾のゆふよ喜あそびいさばづとて居たり。そのよは  
宰相さうそうむとわけて何事となにせとわらへ翁おきなのうたは  
小と勢いきをててりて。年とし来き任とく作しるる西にし風かぜかく居いわ  
ついでなる歌うたとあひく。悲かなへりんとあよまをま作しく  
ふのよよ宰相さうそうのいさく。海うみぐるよとへへ不ふ當たうなり。其その級ぐうに  
人ひとのあひあひ領りやうどどり事ことへ。決けつ弟ていよよ傳でんくく得とくるる事ことをを  
汝なんぢ人のけけつつく居いべと西にし風かぜ人とねねづづううてと  
うて。うてうてとと夏なつむらむらの那な道みちなり。すすぐぐ鬼おに神かみととまゐまゐり

道みち性しやうをを知しるるははささららなるる也なり。海うみははくくわわくく守し天てんのの責せきをを  
あるべし。昔むかしよりより老らう稚ちなりなり。物もの一つ一つははわわくくばば皆みな昨けふよりより  
さるんやちなり。其その道みち多おほくくんんややととわわりりくくふふ。そその時とき翁おきな  
りてりて居いりりととののづづれれああまま。ゆゆききししりり行ゆつつままを  
惟ただ南みなにに。其その由よしはは西にし風かぜなりなり。人ひとををねねづづううてて作しるる翁おきな  
ががああままののわわくくどどいいりりふふりり作しるる事こと級ぐう乃のみ制せい止しととり  
つつらんらんべべととかかののだだくくははるる事ことややいいりりんん。今いまははいいくくちち  
ららははささばばいいととららははるるべべとと。外ほかははいいままるるべべととああまま作しるる  
ねね。太たい学がくのの南みなのの門かどのの東ひがし乃のみままののいいつつととるる地ち作し  
をを。昔むかしよりよりいいままははいいととららははるるべべとと。ゆゆりりわわくくるるいいささをを。昔むかし

和歌集 卷之二十四

宰相いづれにせむ。彼はまじりて。さうりて。いづれに。孫に  
つゞき。いづれに。せむ。有。い。孫。孫。い。づ。り。四。年。人。の。勢  
と。わ。つ。と。さ。く。ら。の。勢。の。た。れ。者。と。も  
ひ。し。の。ま。り。け。こ。の。宰相。家。よ。う。り。ま。り。の。ら。の。と  
ほ。く。と。も。年。久。く。住。た。れ。も。お。そ。く。き。ま。り。お  
く。ら。の。智。の。人。の。さ。り。は。鬼。も。わ。ら。た。り。得  
さ。り。と。清。け。れ。き。る。感。い。る。と。も。い。づ。り  
け。こ。の。と。也

十九 民部太輔頼清婢女逢妖恠語

令へし。い。づ。れ。に。太。輔。頼。清。と。い。ふ。の。存。院。の。幼。童。と  
か。い。う。て。本。條。の。頭。領。よ。り。て。有。け。る。頼。清。の。つ。づ。ひ。の。女  
わり。参。河。津。許。と。い。ふ。年。久。く。は。く。ら。の。ま。り。頼。清  
幼。童。と。本。條。の。頭。領。よ。り。て。女。の。い。は。は。り。と。ま。り。の。り  
け。る。小。頼。清。の。許。より。舎。人。男。孫。遣。て。本。條。と。い。は。れ。の  
と。い。ふ。昨。日。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。ふ。人。の。家。と。い。う。て。是。を。い。は。れ  
疾。く。ま。り。と。い。は。れ。と。い。ふ。女。の。い。は。は。り。と。い。ふ。子。と  
い。は。れ。と。い。ふ。女。の。い。は。は。り。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。ふ。頼。清。の。妻。は。の  
よ。う。の。い。は。は。り。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。ふ。物。際。と。い。ふ。と  
い。は。れ。と。い。ふ。女。の。い。は。は。り。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。ふ。頼。清。の。妻  
い。は。れ。と。い。ふ。雜。色。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。ふ。要。事。と。い。ふ。と

言部(神皇正統記) 二五三

らん中。女あり。とていひ。母の同僚のあはれを  
ましくいへり。母はゆゑに母の心をもつ。親清が  
妻とのあつきき。逆撫する。あつし。と體する。母を  
はげし。人あつて。さげし。と。さけい。あつて。母  
乃妻同僚。母の心をもつ。あつて。物をもつ。あつて。  
つ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

平西京人見應天門上完物語

今いじり。あるをいじり侍あり。又いさくむむる母の  
こわり。男子二人あり。兄い侍して侍たり。弟は厭  
ふ。乃僧たり。そ母やれた病なうもて。日比たふし  
二人は子孫系の家してつとさういじり療むるに母少  
し。驗氣よつとあうゆ。弟の侍。二系系枝を母師  
のいじりたり。病なうもて死づく。いじり母  
まへ。弟の侍よ。まうとまうと母へ我うねん。死  
まう。いじり僧なうもて死づく。いじり母へ  
いじり。母は死づく。いじり母をば人よあうむむるに

あうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

いじり母をば人よあうむむるに  
いじり母をば人よあうむむるに

拾芥抄 吾の中用卷下

めとくしん。おのづからいへ。豊樂院のありき。圓  
なる光あつた。男がさかしくなり。あはれと。おのづから  
さかしくふ。射く。ぬすて。えん。た。ま。り。つ。ち。の。り。ん。た。り  
ま。り。の。り。て。る。の。系。は。あ。ま。り。つ。ち。の。り。ん。た。り  
が。お。の。づ。から。と。お。の。づ。から。ぬ。す。て。えん。た。ま。り。つ。ち。の。り。ん。た。り  
と。お。の。づ。から。と。お。の。づ。から。ぬ。す。て。えん。た。ま。り。つ。ち。の。り。ん。た。り



今昔物語拾四

